

# 2015 年度 センター試験 地理 B (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：36 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ● やや難化	○ 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評                  大問数、解答数とも変化なし。地図問題や統計問題、写真問題の数も変化がなく、昨年同様オーソドックスな出題であった。6 択問題については、分量は昨年よりも減ったものの、選択方法が変わったために解答しづらい問題が見られた。標準的な難易度であったが、易しかった昨年度の問題と比較するとやや難化したといえる。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	世界の自然環境と自然災害	16 点	地形、気候と土壌、自然災害などが網羅的に出題された。図表、写真、地図などが散りばめられたセンター試験の典型的な出題であった。問 3 はやや難しかった。
第 2 問	世界の農業	17 点	農作物の生産、農業の生産性、地域性、流通・貿易など、農業について多岐に渡る出題であった。問 2、問 4 のような基本的な問題もあれば、問 1、問 6 のように農業政策の知識が求められるやや難しい問題も見られた。
第 3 問	都市と村落	17 点	他の大問と比較すると知識量が問われる問題が目立った。問 2 はセンター試験の地理では数年ぶりとなる知識問題の出題であった。問 6 は地域間の結びつきを考えさせる良問であった。
第 4 問	南アメリカの地誌	17 点	南米の地形、産業、民族など網羅的な出題であった。問 3 は「コーヒー＝ブラジル」というミスを誘う問題であった。問 5 の MERCOSUR は出題頻度が低く、消去法でも絞り込みが難しいため、やや難問であった。
第 5 問	現代世界の諸課題	16 点	世界の時事的問題からの出題であった。問 1 は教科書では掲載されていない知識が求められるが、過去に類似の問題が出題されているので、過去問演習をしていた受験生は解答できたであろう。
第 6 問	富良野市とその周辺地域の地域調査	17 点	詳細な知識は必要とせず、地図や資料をしっかりと読み取ることで正解が導き出せる問題であった。また、判断に迷うような選択肢もなかったため、確実に得点しておきたい問題である。